

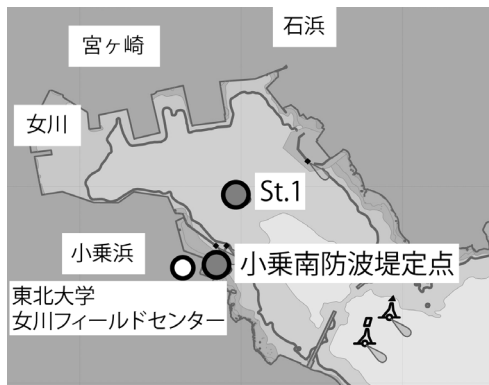
週刊 女川湾海況速報 (No.63)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

10 月 7 日から 11 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

観測点



小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して水温と塩分は全層で下降傾向。経時的に表層（0m）の水温は期間を通じて上昇傾向。鉛直的には 8 日以前に水温逆転が生じていたが、8 日以降にはそれが解消。塩分は 7 日に各水深で期間を通じての最小値を示し、9 日には表層でのみ、11 日には全層で下降。特に 7 日は表層の塩分が低く 31 以下の値を示した。水温逆転は気温の低下の影響、7 日の表層の低塩分水は降水の影響と推定。

水深 [m]	10月7日 (月)	10月8日 (火)	10月9日 (水)	10月10日 (木)	10月11日 (金)
0	20.3 (30.9)	20.7 (32.7)	21.1 (31.7)	21.2 (32.9)	21.3 (32.8)
6	20.4 (32.7)	20.8 (33.0)	20.8 (33.1)	20.6 (33.4)	20.9 (33.2)

水温の単位は℃。

②濁度：先週と比較して全層で下降。経時的には表層で 7 日、底層では 7 日、9 日、10 日に比較的高い値（2.1FTU 以上）を示した。（単位は FTU）

水深 [m]	10月7日 (月)	10月8日 (火)	10月9日 (水)	10月10日 (木)	10月11日 (金)
0	2.4	0.8	0.9	0.9	0.5
6	2.1	1.5	2.1	2.2	1.4

③溶存酸素：先週と比較して全層で下降したが、5~6mg/l 台を維持。経時的には全層で 10 日まで下降したが、11 日にはやや上昇。しかしながら、底層では 10 日以降は 5mg/l 台の低い値で推移。

水深 [m]	10月7日 (月)	10月8日 (火)	10月9日 (水)	10月10日 (木)	10月11日 (金)
0	6.9	6.6	6.4	6.2	6.4
6	6.9	6.5	6.2	5.6	5.7

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 20.5~21.1℃、32.2~33.4 の範囲にあった。濁度は 1.2~2.3FTU の範囲にあり、水深 20m で最大。溶存酸素は 5.2~6.5mg/l の範囲にあり、水深 15m で最小。先週と比較して全層で酸素飽和度が低下し、水深 15m では 71% を示した。

10 月 9 日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	21.1	32.2	1.6	6.5
5	20.9	33.1	1.6	6.2
10	20.6	33.4	1.2	5.4
15	20.5	33.4	1.6	5.2
20	20.5	33.4	2.3	5.6

本データの利用については、
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp

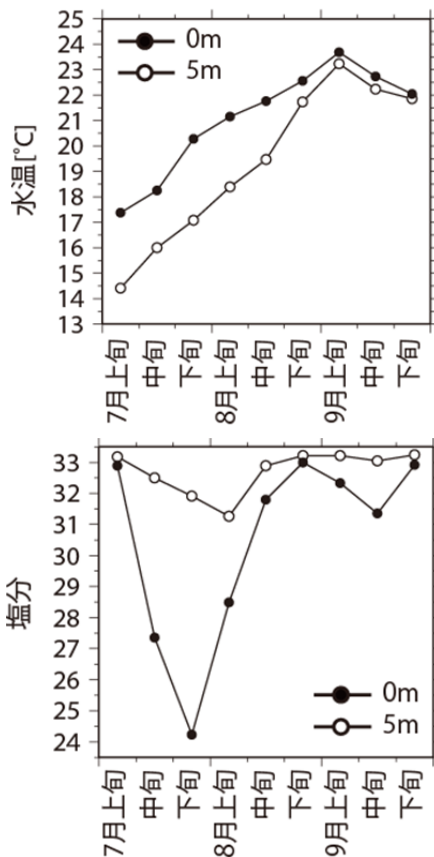
までお問い合わせください。

週刊女川海況速報の付録として、小乗防波堤定点の 3 ヶ月毎の海況情報をお知らせいたします。

2013 年 7 月から 10 月の小乗南防波堤定点の海況情報

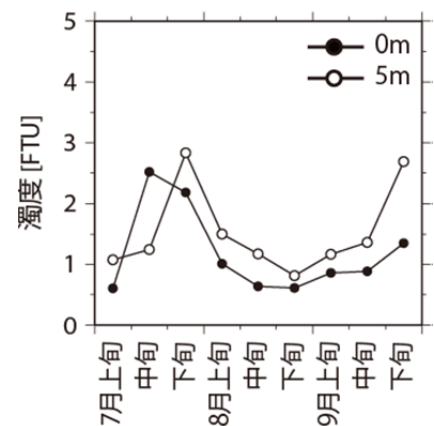
小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：水温、塩分はそれぞれ 14.2～23.7℃、24.2～33.4 の範囲にあった。水温は全層で 9 月上旬まで上昇し、それ以降は下降。鉛直的には 8 月中旬まで水温躍層（～2.7℃/5m）が維持された。一方、塩分は期間を通じて変動が大きく、全層で 7 月上旬から 7 月下旬もしくは 8 月上旬までの期間に急激に下降。それ以降は 8 月下旬まで上昇し、8 月下旬から 9 月中旬にかけて再び下降。7 月上旬から 9 月上旬までの期間の水温上昇は気温上昇の影響、7 月上旬から 8 月上旬までの期間と 8 月下旬から 9 月中旬までの期間の塩分下降は降水の影響と推定。

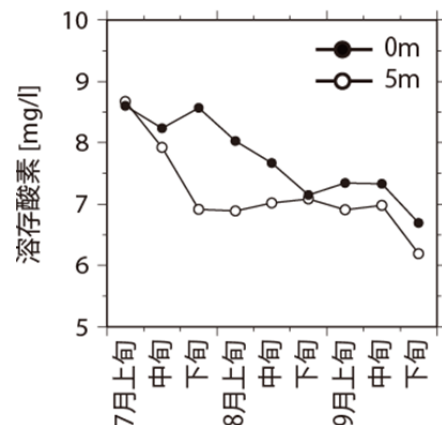


②濁度：濁度は 0.6～2.9FTU の範囲にあり、底層（5m）では 7 月中旬を除く期間

に表層（0m）と比べて高い値を示した。経時的に表層では 7 月中旬と下旬に、底層では 7 月下旬と 9 月下旬にそれぞれ 2FTU 以上の比較的高い値を示した。この高濁度を示した 7 月中旬と下旬は、降水の影響による塩分下降が生じた時期と一致。



③溶存酸素：溶存酸素は 6.1～7.7mg/l の範囲にあり、期間を通じて全層で下降傾向にあった。経時的に表層では 7 月下旬と 8 月下旬から 9 月中旬までの期間に上昇。これらは降水の影響による塩分下降が生じた時期と一致。一方、底層では 7 月上旬から下旬までの期間に急激に下降したあと 9 月中旬まで 7mg/l 程度で推移。9 月下旬に再び下降し、酸素飽和度が 86%まで低下。



水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。